

ケロちゃん通信

2020年 1月 第55号



ながおか医療生協
あたごこどもクリニック

〒940-0038 長岡市琴平1丁目2-1

電話番号 0258-36-5810

<http://www.nagaoka-iryou-seikyoku.jp/>

☆ 新年あけましておめでとうございます。

今年も微力ではありますが、地域の子ども達、子育て中のご両親のために頑張っていきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

☆ 12月から、例年より早くインフルエンザAが流行しています。アデノウイルス、溶連菌も流行しており高熱が出たから必ずしもインフルエンザというわけでもないようです。

インフルエンザの迅速検査は、インフルエンザに罹っていてもウイルス量がある程度増えないと陽性になりません。検査希望の場合には発症後半日くらいしてから来院していただいたほうが、陽性率が高くなると思っておりますので、ご注意ください。

☆ インフルエンザワクチン接種もほぼ終了いたしました。今シーズンは、ワクチンの供給も安定しており自転車操業でなく接種できました。しかし予防枠の数の問題で接種をできなかった方には誠に申し訳なく思っております。来年度も改善にむけて検討していきたいと思っております。

☆ ADHDでコンサータを内服されている方へ
昨年12月よりコンサータの流通システムが変わりました。今まで通り処方はできますが、処方する場合に患者さんの登録および同意書が必要になります。個々に説明させていただきますが、よろしくお願いいたします。



年末年始の休診予定:

新年は1月4日(土)より診療いたしますので
よろしくお願いいたします。

1月の診療予定

本間医師 (10日午前 24日午前・午後)

診療案内

一般診療の受付開始は午前8時30分、午後15時30分からです。

☆ 一般診療

直接来院の場合は、診療時間内に受診してください。
予約希望の場合は、前日0:00からスマホ、携帯、PCより予約システムでご予約ください。
付き添いのお母さん等が体調不良の時も、お気軽にご相談ください。
緊急の場合や、特別な相談がある場合には、まずお電話ください。

☆ 予防接種、乳児健診: スマホ、携帯、PCより予約システムでご予約ください(2ヶ月後の予約までできます)。今まで通り、窓口または電話でもご予約もできます。

☆ 専門外来

① 発達外来(第1金・第3火13:30~15:30、その他の火・金13:00予約制)
小児神経専門医による診療を行っています。言葉が遅い、コミュニケーションがとりづらい、落ち着きがない、かんしゃくを起こしやすい等の発達障害をご心配されている方、ひきつけ、チック、夜尿症などの発達や神経に関する心配がある方は、お気軽にご相談ください。

② アレルギー外来(第1金 9:30~11:20 13:40~15:20、第3金 9:30~11:20 予約制)
アレルギー専門医による診療を行っています。食物アレルギー、ぜんそく、アトピー性皮膚炎、花粉症等で心配がある方は、ご相談ください。

☆ 発達外来、アレルギー外来受診希望の場合には、電話で予約をお願いいたします。(ネット予約はできません)

☆ 生協こどもクリニックとも協力して診察を行っています。病児保育室「すこやか」を利用希望の方は、当院を窓口にして利用することもできます。

熱性けいれん

- 熱性けいれんは、「生後6カ月から5歳くらいの乳幼児期におこる、通常は38度以上の発熱に伴うけいれんで、髄膜炎などの中枢神経感染症、代謝異常、その他のあきらかな発作の原因がみられないもので、てんかんの既往のあるものは除外される。」と定義されています。
- こどものけいれんで最も多く、10-20人に1人の割合で起こる基本的には良性のけいれんです。
- 熱性けいれんのお子さんのご両親や兄弟に熱性けいれんの既往がある場合が多く、何等かの遺伝的素因の存在が推定されています。
- 乳幼児期のこどもの脳は、脳血流、代謝、シナプス数が成人の2、3倍と活発で、発熱などがあるとけいれんを起こしやすい状況であるといえます。しかし脳の発達により、活動性がおちつくと熱を出してもひきつけなくなり、その後の発達や脳の働きに影響を及ぼすことはありません。
- 典型的なパターンでは、6カ月から5歳くらいの健康なお子さんが、発熱に伴い2-3分間以内の左右対称性のけいれんを起こします。終了後は泣いたり、不機嫌になったりしますが、その後しばらく眠ることが多いです。
- これらの典型的なものを単純型といいます。これらの症状とは違う年齢（1歳未満、5歳以上）、時間（15分以上）、頻度、発作型（左右非対称など）などを呈する場合は複雑型と呼ばれ、再発率が高くてんかんなどとの関連を調べる必要がある場合もあります。
- 1回発作を起こしたからといって、通常、脳波検査は不要ですが、複雑型だったり、てんかんとの区別が難しいような場合には脳波やMRIなどを行う場合もあります。
- けいれんが遷延したり意識障害がみられる場合には急性脳症・脳炎、髄膜炎等の中枢神経感染症を否定するために精査が必要になる場合もあります。

<発作時の対応>

- けいれんを目の前にすると、とても不安になったり、怖くなったりすると思いますが、けいれんそのもので命を落とすというようなことはまずありません。気をつけなければならないのは、けいれんに伴い嘔吐し、吐物で窒息したり、不適切な姿勢で窒息することをさけることです。
- けいれんを起こしたら、まず、胸元をゆるめ、吐いても口の外に出せるように、横向きにすることです。口の中に何か入れたり、はさんだりすることはしないでください。通常はそうしている間にけいれんは止まります。通常のけいれんは2、3分で治まるので薬物治療は特に必要ありません。
- しかし、けいれんが長引く場合、繰り返す場合は救急車を呼んでください。けいれん後もボーッとして反応が悪い場合や麻痺がある場合なども、救急車を呼ぶか、すぐに救急病院を受診してください。急性脳症・脳炎、髄膜炎のなどの鑑別が必要になる場合もあります。
- 2回以上繰り返した場合には、発熱時にダイアップの予防投与を行いますので、ご相談ください。

